



「地域に開かれた場」で 障害者の就労をサポート

淡路市社協では、平成17年度の合併以前から、各地で当事者の声を大切にした障害者への支援を盛んに進めてきた。現在では、当事者の組織化を基礎としながら、ケアホーム、共同作業所、就労移行支援事業所、相談支援事業所の運営を行っているが、どの活動場面でも当事者を中心に据え、地域住民とのつながりを大切にした取り組みを展開している。

活動の中で

市社協では、各地の作業所で活動する当事者の「働きたい」という声に後押しされ、障害者の就労支援事業所である「さめきうどん^{はびくる}幸来」を平成23年度にオープンした。店内に入ると、障害を持つメンバーの元気な声がお客さんを出迎える。うどんは本格派で、お昼時に行列ができることも

地域からの
お客さんで
にぎわう店内



しばしば。調理・接客とメンバーが懸命に働く姿は、地域から集まる人々に暖かく見守られ、開店から2年、

その存在は地域に広く知られるようになった。

幸来では、新メニューの開発や餅つきなどを近隣住民とともにやり、地域に開かれ、支持される店作りを目指してきた。時には営業時間外に店を開放し、障害者が集って食事を楽しむ「つながりサロン」も開かれる。障害者が経験を積み、仲間とつながる場である

幸来は、地元住民に愛される、地域に欠かせない場所となっている。

さらに、作業所や幸来で経験を積んだメンバーの活躍の場は、これまで以上に地域に広がろうとしている。過疎化の進行で移動や買物に支障が出てきた集落で、メンバーが弁当の調理配達、移動販売などを担い、住民の生活を支援する活動を始める予定だ。「支援の受け手」として捉えられがちな障害者が、「働き手」として地域住民の生活を支える。そんな意欲的な取り組みに、今後注目が集まる。



地域の子どもが
集まって「餅つき」

「^{はびくる}幸来」がラジオ番組で紹介されます!

ラジオ関西558KHZ (AMラジオ) ハートフルフィーリング
12月16日(月)、12月23日(月) 15:07~15:20

活動のポイント 「地域に開かれた場」にこだわった支援が新たな展開を生み出す!

取材を終えて

お昼時、地域からさまざまな年齢層の方が来店し、食事を楽しんでいました。この場が地域に自然に溶け込んで存在していることが分かります。そして、障害を持つメンバーの懸命に働く姿が、地域住民の意識に大きな影響を与えていることを改めて感じました。

会長から

淡路市社会福祉協議会 会長 長江 良彰

現在、淡路市社協では、将来の地域の姿を見据え、第二次の地域福祉推進計画の策定を進めています。同時に、集落での見守り・支え合い活動など、住民主体の活動実践を淡路から発信し、全国の先進的な実践に学ぶ「第2回町内・集落福祉全国サミットin淡路」の開催準備も進めています。

市内各地の共同作業所や幸来においては、これまで地域とのつながりを大切にした活動を重ねてきましたが、今後も、地域の住民や生きづらさを抱えた当事者と協同しながら、本会の活動理念である「一人ひとりを大切にできるまちづくり」を目指した取り組みを進めます。

